

地球に笑顔

社会と共有する価値 環境対応の推進



「地球に笑顔」への取り組みの詳細につきましては、下記アドレスからもご覧いただけます。
<https://www.maruchan.co.jp/csr/environment/index.html>



静岡県賀茂郡西伊豆町田子地域での稚魚放流活動の様子

① 気候変動への適応とその緩和



気候変動の大きな要因となる地球温暖化に関連する環境負荷の低減を重要な課題の一つと捉えています。事業活動による環境負荷を低減するためにISO14001など環境マネジメントシステムに関する

第三者機関等による認証取得の推進や東洋水産グループの「品質・環境方針」に基づいた「2030年度東洋水産グループ環境目標」を設定し、温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいます。

省エネへの取り組み

省エネタイプの高効率機器の導入やLED照明への切り替え、エコカーの導入などを実施しています。また、各工場では省エネに向けた目標を設定し活動を行っています。例えばミツワデイリー（株）では環境省が策定したエコアクション21に参加し、環境への取り組みを促進するとともに、経費の削減や生産性・歩留まりの向上等を行っています。



ミツワデイリー（株）神戸工場

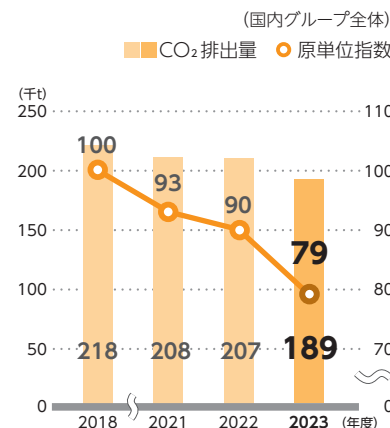
CO2 排出量削減への取り組み

CO2 排出量削減に向け、各工場や冷蔵倉庫では、ボイラー燃料の重油から天然ガスへの転換、フロン冷媒から自然冷媒（アンモニア・CO2）への切り替えを計画的に行っています。また、関東工場、埼玉工場、フクシマフーズ（株）、伊万里東洋（株）ではバイオマス発電や太陽光発電で作られた電力などの再生可能エネルギーを利用しています。物流においても、配送拠点の変更による輸送距離の効率化などに取り組んでいます。



フクシマフーズ（株）のソーラーパネル

● CO2 排出量と売上高原単位



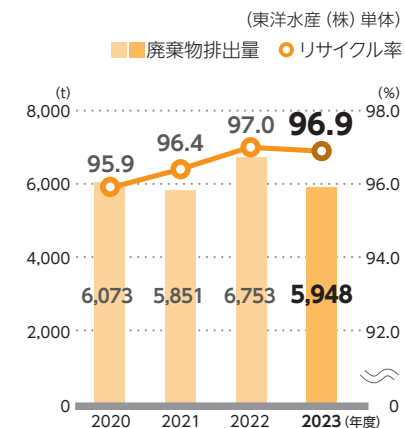
排出量は、各事業所において省エネやエネルギー使用効率の向上に取り組んだ結果、減少し、原単位も改善されました。

● 産業廃棄物排出量と再資源化率



排出量は、一部工場でのコロナ禍の反動による生産増や有価物から産廃への変更があり、やや増加しましたが、再資源化率は99.9%と高水準を維持しました。

● 食品廃棄物の排出量とリサイクル率



排出量は、2022年度にグループ会社から移管した製造ラインの安定化や各工場での製造ロス削減推進により減少し、リサイクル率は目標値95%以上を維持しています。

2 生物多様性の保全



東洋水産グループの創業は水産事業であり、海洋資源を含めた生物多様性の保全は大切な使命だと考えています。稚魚の放流活動、ウナギの完全養殖の量産・事業化の研究や持続可能な水産資源の調達を通じた生態系の維持、保護への貢献を行っています。また河川や海岸での清掃活動、関東工場でのピオトープの設置など、生物多様性を意識したさまざまな取り組みを行っています。

河川、海岸清掃活動への取り組み

海洋生態系におけるプラスチック問題を意識し、各事業所において河川や海岸の清掃活動を推進しています。2022年度からは、品川本社近隣の事業所やグループ会社の社員が参加する海岸清掃活動「スマイル・オーシャン・プロジェクト」を実施しています。



スマイル・オーシャン・プロジェクト活動の様子

3 水資源の保全



「水」は東洋水産グループの事業に欠かすことのできない大切な資源です。持続可能な水資源の利用は、事業を持続的に成長させるための重要な課題の一つだと考えています。各工場では、水の使用量や排水量、また水質を継続的に管理するとともに、水の再利用の促進など使用量の削減に努めています。

水資源の使用量削減への取り組み

ミツワデイリー（株）岡山工場では、再生水の利用を進めています。製造時の麺の冷却水をトイレの洗浄水として再利用し、年間約4,500tの水使用量を削減しています。また、宮城東洋（株）気仙沼工場では、製造時の排水処理施設を改修し、処理水の水質が安定するよう改善しました。



宮城東洋（株）気仙沼工場

● 環境負荷データ (グループ全体)



※物流は、省エネ法(特定荷主)における東洋水産(株)単体の適用範囲より算定
四捨五入表記のため、数値の和・差と合計が一致しない場合があります